

1 月月例労働経済報告のポイント

一般経済

○ 景気は、足踏み状態にあるが、一部に持ち直しに向けた動きがみられる。ただし、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。

- ・輸出は、緩やかに減少している。生産は、下げ止まりの兆しがみられる。
- ・企業収益は、改善している。設備投資は、持ち直している。
- ・企業の業況判断は、慎重さがみられる。
- ・雇用情勢は、依然として厳しいものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・個人消費は、持ち直しているものの、一部に弱い動きもみられる。
- ・物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にある。

○ 先行きについては、当面は弱さが残るとみられるものの、海外経済の改善や各種の政策効果などを背景に、景気が持ち直していくことが期待される。一方、海外景気の下振れ懸念や為替レートの変動などにより、景気がさらに下押しされるリスクが存在する。また、デフレの影響や、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。

労働経済

○ 労働経済面をみると、雇用情勢は、依然として厳しいものの、持ち直しの動きがみられる。

- ・ 11月の完全失業率（季節調整値）は5.1%で、前月と同水準。
- ・ 就業者数（季節調整値）は6,233万人で、2ヶ月連続で前月差で減少（35万人減）。
- ・ 雇用者数（季節調整値）は5,456万人で、2ヶ月連続で前月差で減少（37万人減）。
- ・ 有効求人倍率（季節調整値）は、0.57倍（前月差0.01ポイント上昇）。
- ・ 新規求人倍率（季節調整値）は、0.95倍（前月差0.02ポイント上昇）。
- ・ 現金給与総額（原数値・確報）は278,914円で、前年同月比0.2%増。